

第32回日本毒性病理学会総会及び学術集会 研究発表のご案内

<口演発表>

一般口演Ⅲ(症例報告) 1月28日(木) 15:20 - 16:50 第2会場[6F 国際会議場]

演題番号: O-20 ○高木 みづほ

演題名: Ishibashi rat (ISR)の脊椎病変の発達期における経時的变化

概要:

Ishibashi rat (ISR)は、自然発生性に腰-仙移行部に先天性脊椎後側弯症がみられることで知られる。第31回日本毒性病理学会において、我々は罹病動物(26週齢)の椎骨の病理組織像を示した。本研究では、さらに脊椎後側弯症を罹患したISRの胎児期及び新生児期の脊椎の詳細な観察を行った。その結果、脊椎の彎曲は、組織学的に胎児期の椎間板病変に始まり、胎児期及び新生児期に動物の発育と共に進行することが推察された。

<ポスター発表>

ポスター発表 I-8 1月28日(木) 17:00 - 18:00 ポスター会場[1F 展示場]

演題番号: P-30 ○笠原 健一郎 (当社含む1社1機関*による共同研究)

演題名: NOGマウスにおける組織所見背景データ

概要:

NOGマウスは、T、B細胞の欠損、補体活性の減退、マクロファージの機能不全、NK細胞の欠損及び樹状細胞の機能不全を特徴とする重度免疫不全動物であり、免疫学的な基礎研究や抗がん剤等の薬効評価のほか、再生医療等製品の毒性や造腫瘍性の評価に有用な動物と考えられている。今回、これら安全性に関わる前臨床試験の適正評価に資することを目的として、5週齢のNOGマウスを入手、7、26及び52週齢時まで無処置飼育し、各週齢時における組織学的背景データを得たので報告する。

* (株)ボゾリサーチセンター、公益財団法人実験動物中央研究所

(以上、全て筆頭発表者のみ掲載)